

P-045

5歳児健康診査の実施の有無別による課題と実施のための方策

子吉知恵美¹⁾、永光信一郎²⁾、山口 忍³⁾¹⁾金城大学看護学部、²⁾福岡大学医学部小児科、³⁾茨城県立医療大学保健医療学部

【目的】本研究は、5歳児健康診査（以下、5歳児健診）を実施する上での課題を明確化し、5歳児健診を実施している自治体と実施していない自治体での課題内容を比較検討の上、5歳児健診を実施するための方策を検討することである。【方法】こども家庭庁の成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業として、2024年8月に全国の自治体宛てに実施した質問紙調査結果の中で、課題について単純集計をし、自由記載部分について質的内容分析とKH-Coderによりテキストマイニング分析をする。【結果】1183市町村からの回答により5歳児健診について、保健師が知りたい情報としては「フォローアップ体制」「医師の診察内容」「医師の確保方法」について、6割を占めた。最も知りたい情報は、「医師の診察の内容」であり次いで「フォローアップ体制（教育機関との連携）構築」であった。5歳児健診を開始するための課題としての自由記載では、5歳児健診実施自治体（以下、実施自治体）からの回答（N=70）と5歳児健診未実施自治体（以下、未実施自治体）からの回答（N=724）を検討した。【健診スタッフの資質向上の必要性】【健診方法の課題】【人材確保の課題】【健診実施時期の課題】【関係職種との連携】【フォロー体制整備】【必要な児が支援につながらない可能性】【健診の意義の普及】というカテゴリは5歳児健診実施の有無によらず共通していた。しかし、実施自治体では、【健診時間超過】【健診前後の園や保護者とのやり取りへの負担】【判断基準が曖昧】という内容があった。一方、未実施自治体では【健診追加の意義】【保護者の負担】があった。他の自由記載で、医師の確保に関する工夫では、【医師会や制度の活用】【直接コミュニケーション】【健診日以外で対応】があり、健診の流れでの工夫では、【関係機関との協働】【待ち時間の有効活用】【健診時間と健診精度への工夫】【健診時間日時の短縮の工夫】【モデル事業からの実施】があった。抽出語の共起ネットワークにおいて、実施自治体は「療育」が中心にあるのに対し、未実施自治体は「確保」が中心を占めた。【考察】課題としては、未実施自治体は、保護者の負担に対する懸念や健診スタッフ確保が課題の中心にある。実施自治体の工夫から、医師の診察は健診日以外で対応することやモデル事業を実施するなどの可能な範囲での工夫が実施への方策として考えられる。

P-046

A保育園における幼児の靴と足、爪の実態

二神真理子、小林 睦、坂江千寿子、
細谷タキ子、三池 克明、宮原 香里、
松木 貴子、森本 彩

佐久大学 看護学部

【目的】幼児の健康と成長発達には運動・遊びが大切であり、そのためには、子どもの足に合った靴選びや正しい履き方、フットケアが必須となる。しかし、子どもの足トラブルは幼児期から始まるとされており、幼児期の保護者を対象にした調査（小林,2020）では、回答者の約3割が子どもの足の靴擦れや爪割れ等のトラブルがある、としていた。そこで本研究は、実際に幼児の足の健診を実施して、幼児の足や靴の実態を明らかにすることを目的にした。

【方法】2024年10月、A保育園年少・年中・年長クラス計105人に足の健診を行った。足の健診では、研究者が幼児の内履きと外靴の状態（インソール上の足跡の跡）、足爪（深爪、反り爪、巻き爪）等を観察した。保護者には健診実施前に問診票にて子どもの足の爪切り間隔と切り方、靴の選び方・履き方等を多肢選択法で尋ねた。所属機関による研究倫理審査の承認番号2023006号。利益相反なし。

【結果】調査協力は96人（91.4%）から得られた。上履き84人（87.5%）、外靴90人（93.8%）がインソールのある靴を使用していた。インソールの指跡は、上履き：ぎりぎり55人（65.5%）、余裕あり23人（27.4%）、不明6人（7.1%）で、外靴：ぎりぎり51人（56.7%）、余裕あり31人（34.4%）、不明8人（8.9%）であった。爪は、深爪27人（28.1%）、反り爪21人（21.9%）、巻き爪0人であった。爪切りの間隔は、「1週間に1度」が39人（40.6%）で最も多かった。スクエアオフカットは、「まあまあしている」が52人（54.2%）であった。つま先12~17mmの余裕のある靴選びは、「まあまあしている」が30人（31.3%）、靴のベルトを締め直して履くかは、「いつもしている」59人（61.5%）、足の甲を固定して靴を履くかは、「まあまあしている」35人（36.5%）が多かった。

【考察】インソールの足跡からは、靴のサイズ適合や履き方が判断できる。「ぎりぎり」が多かったことから、足のサイズに合った靴選びができていない、もしくは足の甲を固定する靴の履き方ができていないと推測された。保護者はスクエアオフカットの爪切りを意識していると回答しているが、実際の観察においては3割弱程度が深爪であった結果からは、知識と実践を結び付けるための足に関する健康教育の必要性が示唆された。

本研究は、日本学術振興会科研費の助成を受けて実施した。